

## 令和5年度 第2回 長井市総合教育会議議事録

◇開催日時 令和5年9月6日（水）10:00～

◇開催場所 長井市役所 2階 庁議室

◇出席者 市長 内谷 重治  
教育長 土屋 正人  
教育長職務代理者 遠藤 倫夫  
教育委員 菊地 和代  
教育委員 小野 卓也  
教育委員 鈴木 奈美

### 【事務局】

技術参与	青木 邦博
危機管理参与	高石 潤一
総務参事兼地域づくり推進課長	新野 弘明
産業参事	赤間 茂樹
建設参事	佐原 勝博
総合政策課長	渡邊 恵子
観光文化交流課長	渋谷 和志
教育総務課長兼給食共同調理場長	高世 潤
学校教育課長	横澤 聡一
総合政策課補佐	佐々木真一
地域づくり推進課補佐	吉川 幸代
学校教育課主査	新野 武憲
教育総務課教育総務係長	長澤 春香

- ◇日程
- 1 開 会
  - 2 市長あいさつ
  - 3 協 議
    - (1) 次期・長井市教育等に関する施策の大綱（案）について
      - ① 振り返りと修正案について
        - i) 前回6/20第1回総合教育会議での意見の振り返りと大綱（案）の修正について
      - (2) その他
  - 4 その他
  - 5 閉 会

## ◇議事内容

### 1 開会

【開会のあいさつ】…（事務局/教育総務課長）

### 2 市長あいさつ

日頃より、教育委員の皆様には学校教育・社会教育等、様々な面でご指導・ご助言を賜り感謝申し上げます。先週1日にはくるんとかがランドオープンし、2・3日は笑顔全開祭りを行い、多くの人出があった。同日の旧長井小学校第一校舎のイベントにも1,000人を超す参加があり、久しぶりに市内外の多くの方に楽しんでいただくことができ嬉しく思う。

本日の総合教育会議は、教育委員会と市長部局の意見交換を行う場。6月に1回目会議、本日が2回目。前回の会議では、来年度からの次期「教育等の大綱」について様々なご意見を頂戴しながら、市長部局と意見交換をさせていただいた。本日は、いただいたご意見を元に事務局で作成した修正案に対するご意見を頂戴し、ご承認いただくとともに、今後大綱を元に作成する「教育振興計画」、「文化財保存活用地域計画」、「スポーツ振興計画」の策定に向け、大綱の理念や目標の実現のために必要となる施策の案や、教育委員の皆様の思い・願いなどをお聞かせいただければありがたい。

### 3 協議（座長・内谷市長）

#### (1)次期・長井市教育等に関する施策の大綱（案）について

##### ①振り返りと修正案について

【説明】…（事務局/教育総務課教育総務係長）

i) 前回6/20第1回総合教育会議での意見の振り返りと大綱（案）の修正について

##### 【質疑応答】

（建設参事）基本理念において「居心地の良いまち」と、大綱独自の、第六次総合計画と違うものにした理由は。

（市長）ここは六次総のキャッチフレーズとリンクしなくても良いと認識している。六次総の進捗は。

（総合政策課長）前回の会議で、教育委員から第六次総合計画の将来像の「住み続けたいまち」という部分に排他的なイメージを感じる、という意見をいただき、現在修正を行っている。振興審議会で概ね了承をいただいたところで、「みんながしあわせに暮らせる長井～ずっと笑顔があふれるまち～」とする予定。

（教育委員）今は若い教員が多く、大変な思いをしている方が多い。学級崩壊は、昔は子供対教師が主な要因だったが、今は発達障害の子供や、一色にできない、一律の指導に染まらない子供がいることが要因になっている。市ではインクルーシブ教育を謳っており、そういう社会にしていかなければならないと思うが、学級崩壊の大きな要因はそういう子供をどう受け止めていくか。一人一人に応じた、誰一人取り残さない指導をしていくと、あり方が様々な子供たちをきちんと座っている子供たちはどう思うか。ダブルスタンダードになる。そこを解消してあげないと学級経営に悩む教員は減らないと思う。人の配置やサポートする体制を講じていかないと本当のインクルーシブ教育にはならない。例

えば学級を巡回する教員を入れる・増やすなどのサポート体制を考えていた  
かないと、若い先生も大変な思いをされると思う。予算にも関わることであり  
ため、ご検討いただきたい。

(市長) そこが日本の教育の課題だと思っている。以前、オランダ在住の教育研究家  
であるリヒテルズ直子さんのお話を聞いたことがあるが、オランダでは日本の  
教育の仕方と違い、子供たち一人一人が自分で目標を立てて自ら学び、教師は  
指導しながら良いところを伸ばしていくスタイル。先輩や同級生との学び合い  
も多いし、色々な学校のスタイルがあり、日本のように一律ではない。日本の  
教育の在り方を抜本的に変えることは難しい。普通教室の中で様々な課題を持  
っている子供も一緒にやっていくことになると思う。学級経営に悩むだろうし、学級  
崩壊に繋がるような状況が常にあるのだろうと思う。

(教育委員) インクルーシブが叫ばれている世の中であり、そうした社会は大事だと  
思うが、その受け皿として具体的に何かできるのか。「一色にしる」というこ  
とだと教師がパンクする。子供の人数を減らす、指導者を増やす、適切な指導  
ができる人を送り込む等の対応が必要。指導主事も学校を回ってくれてはいる  
が、実際問題大きな悩みだと思う。50代のベテラン教員であっても大きな壁に  
ぶつかる可能性がある。

(教育委員) 人員配置は以前からの課題だと感じている。ある県議は「教師は男性が  
多い。男性も育休を活発に取ってほしい」という意見を出されているが、男性  
も育児に積極的に関わりたい、休みを取りたい、という人も多いと思う。ただ  
でさえ人員不足・過重労働なので、補助職員の充実が図れば良いと思う。また、  
過重労働が一向に減らない中、「帰国子女を受け入れると日本語を教えな  
ければならない、それが時間外になってしまう」という話もあったので、負担  
が減らない状況、逆に増えてしまう施策がある。施策に見合う人員を配置して  
ほしい。

(市長) 教職員の働き方改革はやっていかなければならないことと認識している。課  
題は、文部科学省がどういう施策を進めたいのか良く見えないこと。今の日本  
には様々な課題があるが、一番発言力があるのは中高年であり、その中高年の  
関心は年金、介護、医療、住宅。それが社会保障の6割を占めている。育休は  
男性であろうと女性であろうと当然の権利ではあるが、それをカバーするに  
は、人員はもちろん、お金も必要。まず「40人の学級で良いのか」など様々な  
ことを改革していかなければならない。どういう風に再構築していくか。た  
だ、現状の中でも市が一体となって、子供たち一人一人の能力を育成できるよ  
うな教育体制や、幸せ感を持てるように、国にも要望しながら、最善の方法を  
取らなければならない。

(教育委員) ④について、「お互いを大事にし、理解し合える子供」に修正された  
が、「お互いを大事にし、理解し合える」のは子供「たち」である。一人では  
ない。複数形の形容句に単数形がついてしまっている。「特定の子供」を生か  
すのであれば、「お互い」、「合える」という言葉は適切ではなく、「自己肯定感  
を持ち、他者を尊重する」などに修正してはどうか。また、「豊かに生きる力  
としなやかな心」について、目標と方針の最後にそれぞれ出てきているが、同  
じ言葉をそのまま使うのは芸がない。他の2つについても、方針の方はより開

いた書き方になっているので、「豊かに生きる力」と「しなやかな心」がどう  
いうことなのかを表す別の表現に変えた方が良いのではないか。例えば「心豊  
か」、「しなやか」は「柔軟な、失敗しても立ち直れる」など。3点目、「協  
働」という言葉についても、何を意味しているのか、分かりやすい言葉にした  
方が良い。「学校・教職員任せにせず全体で力を合わせて取り組んでいく」な  
ど。また、方針に「家庭」が入っていない。「学校」、「家庭」、「地域」それぞ  
れの人員がみんなで子供を育てていく形が表現できれば良い。4点目、⑧の修  
正において「壁」を削除したが、「違い」という言葉を入れてはどうか。「違  
い」であれば分断のイメージもないし、違いがあることを前提として、その違  
いを越えてやっていく。ダイバーシティという言葉の意味にも、「違い・差  
異」は入っている。「違い」がある方が言葉の繋がりが良いと思う。

(教育総務課長) ご指摘の4点については、事務局で修正し、後日お示しすること  
を承認いただきたい。

(全員) 了。

(市長) 修正について事務局案を作成し、市長部局と意見交換、その後教育委員の皆  
様にもご意見をいただくこととする。

(教育委員) 魅力あるまちづくりとともに、魅力ある教職環境づくりも進んでいくこ  
とを願っている。⑧の「壁」の削除について、「性別を超える、障害を越え  
る」とはどういう意味だろうと違和感があった。「違い」を入れることに同  
意。

(教育長) 人員配置について、定数は国の施策。本来は国ですべきものであると思っ  
ているが、市長部局からも理解をいただいて、長井市ではかなり手厚く人員の  
配置や施設環境等について配慮いただいていると実感している。国への要望も  
大事なので、強く打ち出していきたい。また、柔軟なものに対応することにつ  
いて、例えば伊佐沢小学校は児童51名のうち校区外から通学している子供が4  
名いる。伊佐沢の環境と少人数という強み、ここだったら子供が自分らしく生  
きられるのではないかと、という期待をもとに選んでいただいたと思っている。  
かつて伊佐沢小は教育課程の特区を持っていたが、英語の教科化により特区が  
なくなり校区の柔軟な対応となっている。教育課程の特例校を検討していく必  
要があると考えている。

(教育委員) 長井市の特色として英語教育とICTが挙げられ、非常に手厚いALTの配  
置をしていただいております、ありがたいと思っています。特色的な教育の姿とし  
て、英語の教育課程の特例校では、学習指導要領に国語●時間、英語●時間、  
と決まっているものを取り払って、英語を重点にすることが可能。また、今は  
45分間まとめた指導だが、英語活動の初めの頃は15分ずつでも良く、比較  
的柔軟にできた時期もあった。その頃は毎日英語に親しむ機会を作っていた  
が、今の制度ではできない。ALTalkDayという重点的に英語に触れる日はある  
が、まとめてより、毎日少しずつ英語に触れられるように柔軟な時間割を組む  
ことができるため、今以上に伊佐沢小学校の特色を生かせるのではないかと思  
う。伊佐沢地区との合意などや関係機関との調整も必要だが、長井市の特色を  
考えれば、教育課程特例校も検討していく価値はあるのではないかとと思う。

(市長) 教育特区の申請なども考えられる。文部科学省だけでなく内閣府とも相談できるかもしれない。長井の教育の課題の解決に繋がるような特区であれば、英語でも良いし、様々考えられるかもしれない。これから協議していただきたい。長井ならではの教育を生かしていく取組をしていきたい。

(市長) 一部事務局預かりの修正もあるが、大綱(案)について、おおむね賛成いただくことにご異議はあるか。

(全員) 異議なし。

(市長) 異議なし、と認め、大綱(案)については、本日提案したものを基本とし、いただいた意見を活かして再度修正をかけることとする。

## (2) その他

(市長) 地域との関係としては、以前の地区公民館は、地域での教育や生涯学習・社会教育等の担い手だったが、コミセン化し、そのみならず地域の皆様の暮らしを含めたあらゆるものについて、行政や教育委員会と連携しながら、特に子供たちを中心に地域のコミュニティの醸成を図っていく、お互い理解し合いながら支え合う地域づくりの拠点となる。それがスクール・コミュニティの考え、子供たちを中心としたまちづくり、と市長部局でも考えている。

(教育委員) 今2つの学校運営協議会に参加しているが、出てくる話は評議委員会の時と全く体制が変わっていない。学校長が説明をして、委員が意見を言って終わり、実際に何をするのか決まらないで終わる。運営協議会とは名ばかりでないかと感じている。学校に「課題を出すだけでなく、先生でなければならないこと以外で地域の人ができることはないか、という観点で「こういうことをしてほしい」ということを出してほしい。そうすれば具体的に地域で誰がしよう、という話ができる」と伝えてはいるが、なかなか状況が変わっていない。コミュニティスクールとは程遠い現状にある。一因になっているのは運営協議会のメンバーが実働部隊でなく、コミセンの館長など組織の代表が来ていることだと思う。それぞれの組織でやる、という話にならず、誰がするのか、という話になりづらい環境にある。人材バンクのようなイメージで、PTAのOBや役員をやったことがある人で余力がある人など、実際に動ける人を組織して、学校運営協議会に組み込んでいくことがコミュニティスクールを実際に動かしていく上では大切であると思う。本丸に入れず外堀から眺めているような状態がずっと続いている。学校の中で管理職に「先生がしなくていい。地域の人に任せよう」と言っていたら、地域で「じゃあ誰がしよう」と話が進む。マッチングもあるが、まず動かしていくことが必要でそのための組織作りが必要。また、学校運営協議会には女性がほとんどいない。ダイバーシティも含めた組織作りも必要。

(教育長) コミュニティスクールはずっと重点で上げてきているが、なかなか進んでいないのは承知している。発想の転換ができないのか、踏み出す勇気がないのか。組織については、委員会が承認もしているので、学校から上がってきたものをすべて通すわけではなく、ここにも熟議が必要だと思っている。温めていたが、具体的に行動化していきたい。また、スクール・コミュニティを創るときに重要なのは、学校の施設をどう開放するか。三鷹市の例では、子供食堂は

学校の調理室を使っている。朝ごはんを食べられない子に、調理室で調理して朝食を与えている。これだと自然にコミュニティができる。今よりもう一步踏み出して「どうぞ学校を使ってください」というこちらからの投げかけも必要だと思っている。そういう話を深くしたいし、学校は地域の力がほしい。話し合いの在り方や回数を見直して、一定の方向性を示す必要があると思っている。踏み切る時期に来た。

(市長) 団体の長は下に伝える必要性があるが、その場で終わってしまうことも多い。また、男女共同参画を推進はしているものの、団体の長で組織していると、女性の団体を入れないと委員にも女性が入らない現状がある。子供食堂は、コミセンを借りてボランティアで子供に食事を提供しているが、コミセンは正規の料金ももらっている。一つ一つの事業に対してまだまだコミセンの理解が進んでいない。学校側も何のためにコミュニティスクールをしているか考えていただければと思う。従来通りではなく、改善していかなければならない。

(市長) 活発な議論に感謝する。大綱もお認めいただいたので、これから一部修正はあるが、次期大綱で長井の教育の在り方も変わっていく。今後ともよろしくお願いしたい。

#### 4 その他

(事務局/教育総務課教育総務係長) 大綱関連の今後のスケジュールについて

#### 5 開会

【閉会のあいさつ】… (事務局/教育総務課長)

(会議 11:15 終了)

以上